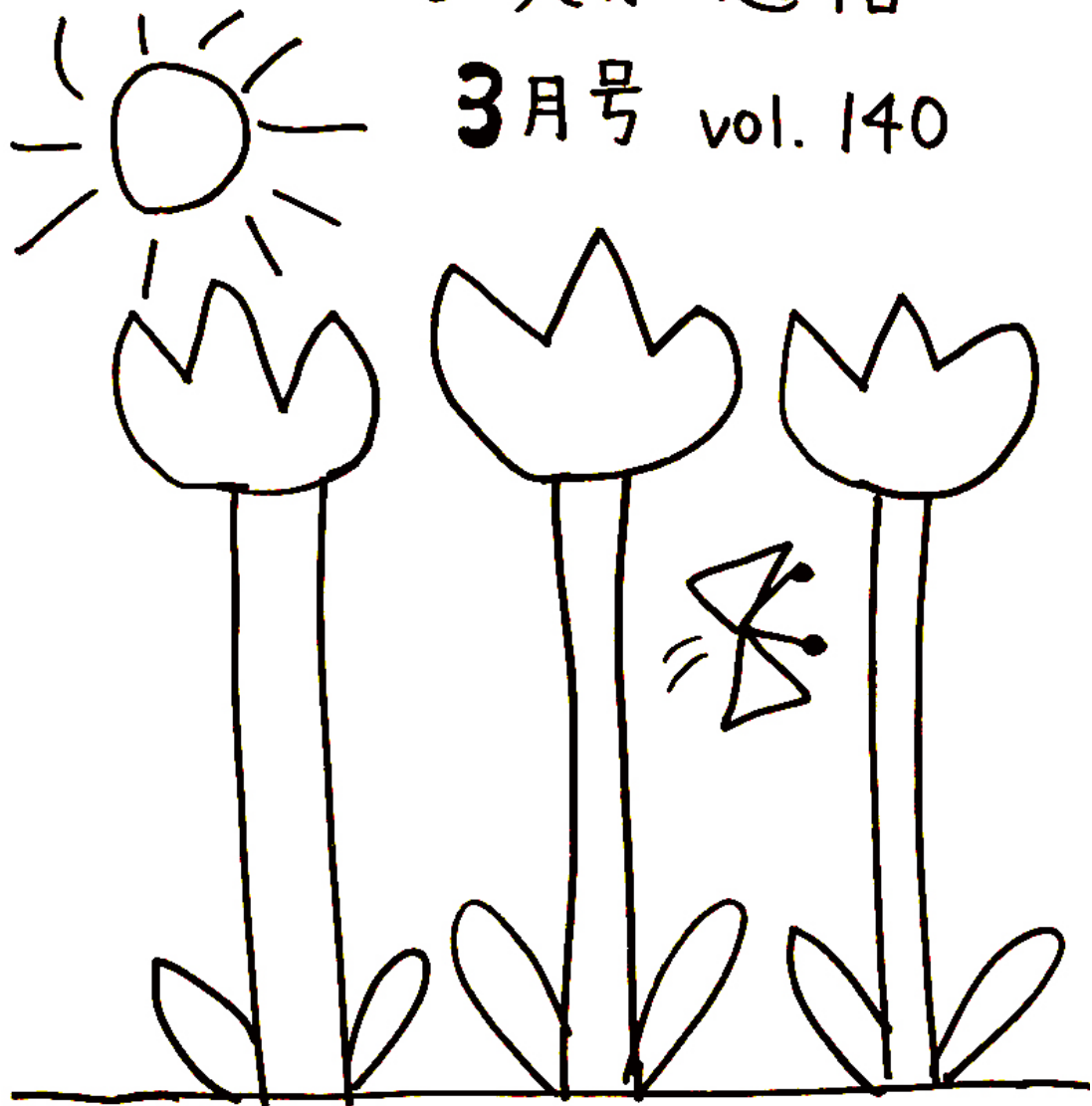


とよ・たち美肌通信

3月号 vol. 140



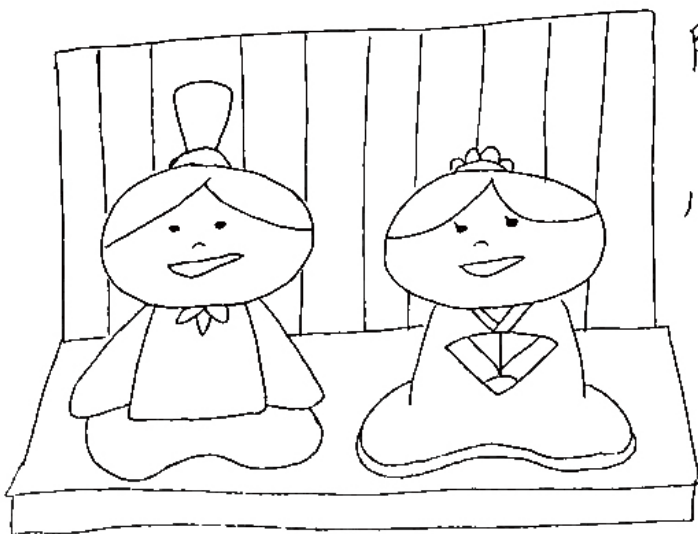
こうき

# March

今日号のとよ下ち美肌通信の  
表紙は、久しぶり暖かく  
気持ちのよい日が多くなる春、大きな  
チューリップが元気に咲いていますね！

ちゅうちゃんもとても楽しそうに飛んでいます♡  
絵を描くことや、泳ぐことが得意で、

好きな食べ物はいちご・さくらんぼ・  
スイカが好きな男の子が描いてください  
ました😊 ありがとうございます！！



院長はじめ  
スタッフ一同  
バカリ感謝  
いたします。

教科書にも出てくる高村光太郎の「道程」は未来に歩み出そうとする若者の決意を言いつけ上げています。自然も相手にそれを父に例えてこれから歩もうとする自らの決意を告げています。自分が果敢しい何かを切り開いていこうとする気概を表現しています。

私は道に良い道 悪い道 というものがある訳ではないと思っている。その道をどの様に歩いていくかどの様に生きていくのかという、その生き様によって、舗装された一見良く見える道も悪くなったり、凸凹した悪く見える道も良くなったりするのだと思う。

自分自身の過去を振り返った時、多くの失敗と僅かな成エカした事象があります。後者の僅かな成エカ例の理由を考えると、そこには「気(気持ち)」というキーワードが共通して浮かんできます。私は「気」とはかなり重要なウエイトを占めていると思っています。「気」とは個人の受け取り方と考え方であると思っています。

こんな話があります。ある町がありました。一人の旅人がその町にやって来た。町の入り口の門の所に一人の老人が座っていた。旅人はその老人に尋ねます。

「おじいさん、この町はどんな町ですか？」。

おじいさんは旅人に聞きます。「あなたが今までいた町はどんな町でしたか？」。旅人は答えました。「前にいた町は嫌な人ばかりで、ろくな町じゃなかった」。「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じ町です」。

また別の日に別の旅人が来た。「おじいさん、この町はいったいどんな町ですか？」。おじいさんは聞く。「あなたがこの前にいた町はどんな町でしたか？」。「私がいままでいた町は人々はみな親切で、誰とでも仲良く挨拶ができる素晴らしい町でした」。「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じ町です」、と老人はその旅人に答えました。実は二人の旅人が来た町は同じ町なのです。結局この話の言いたい事は何かというと、状況や環境というのはその人の気持ちや心が決めるという事。

状況や環境をより良くつくっていくのは、その人そのものであるということなのです。

環境に左右されるのではなく、前進しながら造っていきける人間に変わればこの上ないものです。

院長, 持